

平成 26 年度 事業報告書
(平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日)

事業の状況

1. 助成事業

情報科学の国際的研究交流を推進するため、研究者海外派遣助成、外国人研究者交流助成及び特定分野研究交流助成を以下のとおり実施した。

1.1 研究者交流助成

(1) 研究者海外派遣助成

将来を担うべき有能な若手研究者を対象に、海外で開催される情報科学に関する国際研究集会派遣のための渡航費及び滞在費の一部を助成した。

①募集・選考

助成募集要項および申請書は財団ウェブページに掲載するとともに、大学等学術研究機関の情報系関連部署 163 ヶ所に募集案内を郵送し、公募した。4 月 1 日～5 月 31 日まで募集したところ、75 件の申請があった。

6 月 23 日開催の選考委員会において慎重に審議し、採択 10 件(内 1 件は口頭発表での採録条件付きの内定)と補欠 2 件を選考した。

②決定・交付

選考委員会の選考結果を受け、理事長が平成 26 年度研究者海外派遣助成金交付対象者を下記表のとおり決定し、助成金を交付した。内定者はポスター発表での採録となったため、内定取り消しとした。結果判明が遅かったため、補欠者を繰り上げ対応は無し。

助成件数 9 件、助成金交付総額 1,650,000 円

氏名・所属	参加国際会議	助成金額
秋本 洋平 信州大学学術研究院工学系 助教	Genetic and Evolutionary Computation Conference (カナダ)	17 万円
高松 勇輔 慶應義塾大学大学院理工学研究科 博士課程 3 年	12th IEEE International Conference on Privacy, Security and Trust (カナダ)	17 万円
三好 賢聖 東京大学大学院工学系研究科 修士課程 2 年	ACM SIGGRAPH 2014 (カナダ)	17 万円
近藤 慎一郎 山梨大学大学院医学工学総合教育部 修士課程 2 年	International Conference on Sketch-Based Interfaces and Modeling with SIGGRAPH (カナダ)	17 万円

氏名・所属	参加国際会議	助成金額
速水 健人 東京工業大学大学院理工学研究科 修士課程 2年	22nd International Conference on Pattern Recognition (スウェーデン)	20万円
卜部 夏木 東京大学大学院情報理工学系研究科 修士課程 1年	25th International Conference on Concurrency Theory (イタリア)	20万円
切通 恵介 京都大学大学院情報学研究科 修士課程 1年	25th International Conference on Database and Expert Systems Applications (ドイツ)	20万円
大畑 善裕 大阪産業大学大学院工学研究科 博士前期課程 1年	18th International Conference on Knowledge-Based and Intelligent Information and Engineering Systems (ポーランド)	20万円
LEE Hosun 北陸先端科学技術大学院大学情報科学研究科 博士後期課程 3年	IEEE/RSJ International Conference on Intelligent Robots and Systems (アメリカ)	17万円

(2) 外国人研究者交流助成

将来を担うべき有能な外国人研究者又はそれを受け入れる研究者を対象に、日本で開催される国際研究集会参加、又は日本の研究機関において共同研究を行うための渡航費及び滞在費の一部を助成した。

① 募集・選考

助成募集要項および申請書は財団ウェブページに掲載するとともに、大学等学術研究機関の情報系関連部署 163ヶ所に募集案内を郵送し、公募した。4月1日から5月31日まで募集したところ、以下のとおり申請が6件あった。

申請者別： 受入れ者による申請 2件 外国人研究者本人による申請 4件

目的別： 国際会議参加目的 1件 調査・共同研究目的 5件

6月23日開催の選考委員会において慎重に審議し、1件を採択した。

② 決定・交付

選考委員会の選考結果の報告を受け、理事長が平成26年度外国人研究者交流助成金交付対象者を下記のとおり決定し、助成金を交付した。

助成件数 1件、助成金交付額 200,000円。

外国人研究者氏名・所属	受入れ機関	出発地	助成金額
Emilio Castillo Villar Barcelona Supercomputing Center	東京工業大学学術国際情報センター	スペイン	20万円

1.2 特定分野研究交流助成

ソフトウェア分野における情報技術の将来を見通した研究課題の提言を行うことを目的に、産学戦略的研究フォーラム(SSR-Joint Forum for Strategic Software Research)と称し、産学の研究者が活発に交流する調査研究グループによる、ワークショップの開催、海外からの研究者の招聘及び国際会議への派遣を中心に研究交流助成を行った。

(1) 募集・選考

助成募集要項を財団ウェブページに掲載するとともに、ソフトウェア関係学会のメーリングリストに配信し、4月15日～5月20日の間、対象テーマを募集したところ、8件の申請があった。なお、申請は主査となる大学等学術研究機関の研究者が行うものとした。5月29日の特定分野研究交流助成(SSR)運営委員会において慎重に審議され、4件が採択された。

(2) 決定・交付

SSR運営委員会の選考結果を受け、理事長が平成26年度特定分野研究交流助成として4件の助成対象テーマおよび助成金額を決定した。対象期間は平成26年4月1日～27年3月31日。助成件数 4件、助成金交付総額 2,982,631円。

(3) 対象分野及び各活動内容

対象研究テーマと活動内容はそれぞれ以下のとおりとなった。

① プロダクトライン進化に関する調査研究 (交付額 1,040,599円)

グループメンバー: (主査)丸山勝久(立命館大学)

澤田篤史(南山大学)、小林隆志・林晋平(東京工業大学)、位野木万理(工学院大学)、吉田則裕(名古屋大学)、角田雅照(近畿大学)、岩政幹人・神代剛典(東芝)、白石崇・長岡武志(東芝ソリューション)、林千博(とめ研究所)、大島敬志・小川秀人・島袋潤・三部良太・渡邊結・加藤正恭(日立製作所)

② 実ソフトウェア開発プロセスでの形式手法とテスト技法の系統的活用 (交付額 953,775円)

グループメンバー: (主査)日下部茂(九州大学)

荒木啓二郎・大森洋一(九州大学)、片山徹郎(宮崎大学)、鷺見毅(東芝ソリューション)、黒丸知也(とめ研究所)、伊藤信治・秦野康生(日立製作所)

③ 大規模複雑な自己適応システムの適応進化制御手法に関する調査研究 (交付額 688,257円)

グループメンバー: (主査)田原康之(電気通信大学)

大須賀昭彦・清雄一(電気通信大学)、松本一教・田中哲雄・一色正男・岩田一(神奈川工科大学)、永井保夫(東京情報大学)、中川博之(大阪大学)、糸野文洋(日本工業大学)、佐賀亮介(大阪府立大学)、鄭顕志(国立情報学研究所)、川村隆浩(東芝)

④ M2M サービスビジネスモデリング手法の事例適用と評価 (交付額 300,000円)

グループメンバー: (主査)内平直志(北陸先端科学技術大学院大学)

石松宏和(日本経済大学)、蔭山佳輝・櫻井茂明(東芝)、平博司・鈴木裕之(東芝ソリューション)、角谷有司・水島和憲(日立製作所)

(4) 成果の報告

平成 25 年度 SSR 全体報告会を 5 月 29 日、国立情報学研究所(東京都千代田区)において行った。また、別途ウェブページ上で成果報告を公開した。

なお、平成 26 年度に関する報告会は平成 27 年 5 月 13 日に開催する。

2. 競技会開催事業

将来を担う情報科学の若手研究者の育成のために、情報技術に関する競技会を以下のとおり開催した。

(1) プログラミングコンテスト(ICPC)開催

競技開催費 10,358,801 円

ACM(国際計算機学会)が年 1 回、世界的規模で開催している国際大学対抗プログラミングコンテスト(ACM-ICPC)のアジア地区予選として ICPC2014 東京大会を早稲田大学と共同で開催した。

①経緯

2014 東京大会の開催について早稲田大学との共催で行うことを財団 ICPC 運営委員会の決議を経て、理事長が決定した。

②実施概要

日時：平成 26 年 10 月 18 日～20 日

場所：国立オリンピック記念青少年総合センター(東京都渋谷区代々木神園町 3-1)

主催：ACM-ICPC 東京大会実行委員会、早稲田大学、(公財)情報科学国際交流財団

実行委員長：鷺崎弘宜(早稲田大学)

実行副委員長：本田澄(早稲田大学)

審判長：田中哲朗(東京大学) 副審判長：石畑清(明治大学)

内容：大学院、大学及び高等専門学校の同一校の学生 3 人が 1 チームを構成し、コンピュータプログラミングの正確さと速さを競うコンテストで、世界大会出場のための選抜大会として、世界各地で地区大会が行われる。本大会は平成 27 年 5 月に開催される世界大会のアジア地区予選に該当した。まず、インターネットを利用して日本国内予選を実施し、本選はオリンピックセンターの会場で、インターネットを利用した国内予選を通過したチームと外国チームが一堂に会して行った。出題、進行等についてはすべて英語で行った。

参加数：国内予選(7 月 11 日 Web を利用して開催)・・・ 72 校 326 チーム

東京大会本選・・・ 国内 29 校 36 チーム、海外 5 校 5 チーム 計 34 校 40 チーム

(池辺記念奨励枠として、中央大学、埼玉大学、北海道大学の 3 校 3 チームを選抜き、545,873 円を充てた。当該枠の残額は、1,364,492 円)

結果(大学順位)：1 位東京大学、2 位上海交通大学(中国)、3 位北京大学(中国)

(世界大会への参加権は、日本からは、東京大学、京都大学、筑波大学の 3 チームが得た。)

(2) ICPC 地区大会及び世界大会への派遣

① ICPC 世界大会への派遣(コーチ及び選手)

派遣補助 3 チーム、計 960,000 円。

平成 25 年度の地区予選大会(ICPC2013 会津大会)で選ばれた 4 チーム(東京大学、東京工業大学、京都大学、筑波大学)を 6 月 22 日～26 日にエカテリブルク(ロシア)で開催された ICPC 世界大会へ派遣した。結果は、東京大学 7 位(銀メダル)、京都大学 19 位、東京工業大学と筑波大学は 45 位となった。

② ICPC 世界大会への派遣(指導者)

派遣 2 件、計 445,651 円。

前述の世界大会の会期中に行われる指導・運営に関する会議に、財団 ICPC 運営委員・石畑清教授(明治大学)及び ICPC2014 東京大会実行委員長・鷺崎弘宜准教授(早稲田大学)を派遣した。

③ ICPC アジア地区予選への派遣

派遣補助 2 チーム、計 400,000 円。

国内予選 1 位の東京大学(1#%&()*+-./:;<=>@[¥]_`{|})をアジア地区予選クアラルンプール大会(マレーシア、11 月 1 日開催)へ派遣し、優勝した。

国内予選 3 位の筑波大学(nekonyaso)を台中大会(台湾、11 月 22 日開催)へ派遣し、結果は 4 位(チーム順位 8 位)であった。

(3) ICPC に関わる予備練習会等の開催

過去に行われた ICPC への参加経験者(OB/OG)の協力のもと、予備練習会を行った。

①国内予選の前の 7 月 5 日にインターネットを利用した予備練習会を行った。

②本チーム全体のレベル向上、競技プログラミング界全体の活性化を目標に、9 月 12 日～15 日にわたり国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて東京大会に向けた強化合宿を行った。

また、9 月 14 日にはリクルートホールディングス社オフィスにおいて模擬練習会を行った。参加者は選手 60 名(20 大学)とスタッフ 16 名で計 76 名、開催補助 250,000 円。

(4) ICPC2015 開催

10 月 28 日の ICPC 運営委員会において筑波大学を次年度の開催校に選定し、理事長が ICPC2015 つくば大会の開催を決定した。本大会については茨城県及びつくば市の共催も決定した。

大会委員長田中二郎教授(筑波大学)、審判長石畑清教授(明治大学)が決定し、平成 27 年 11 月 28 日～30 日につくばカピオ及びつくば国際会議場(つくば市)での開催予定とした。3 月 13 日に、実施に関する会議を筑波大学にて行い、つくば大会の計画と役割分担について検討した。

以上